

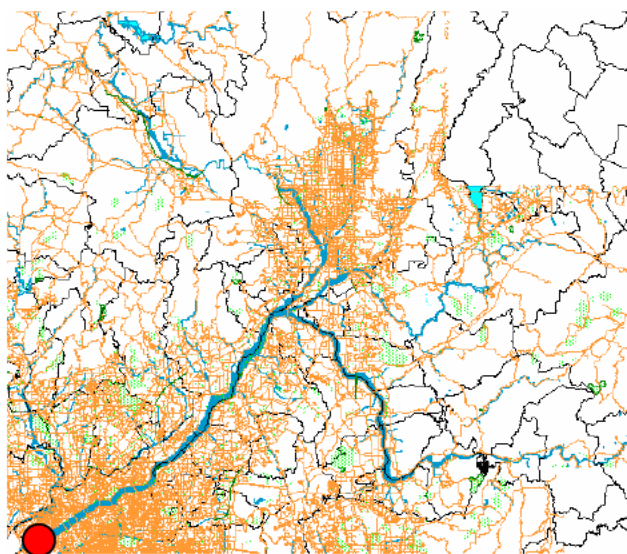
基礎案での記載箇所		府 県	章項目	5. 3. 2	ページ	p.46	行	27行目 31行目
事業名	17. 治水事業〔高潮対策〕					河川名	淀川	
	大阪府							

●現状の課題

大阪湾に注ぐ淀川の下流部の堤防は、昭和36年の第2室戸台風の高潮で大きな被害を受けたのを契機に実施された高潮対策などによって、積み重ねられた構造となっており、その高さは、伊勢湾台風規模の台風が満潮時に最悪コースで接近した場合の想定高潮高さで整備されてきた。

一部の橋梁横断部では所定の堤防高さを有しておらず、中には高潮時には陸閘によって浸水を防ぐことを余儀なくされた橋もあり、陸閘操作時には、鉄道及び幹線道路が遮断されることから、社会経済上大きな影響を与えている。

●位置図



事業箇所

●河川整備の方針

高潮対策のため陸閘が設置されている橋梁の嵩上げは、早期の実施が望ましく、現在阪神電鉄西大阪線淀川橋梁の改築について設計や、関係機関と協議調整を行っているところであるが、橋梁取り付け部の整備と周辺の土地利用との調整に多大な時間とコストが必要であり、河川整備との優先度を十分に判断し、実施する。

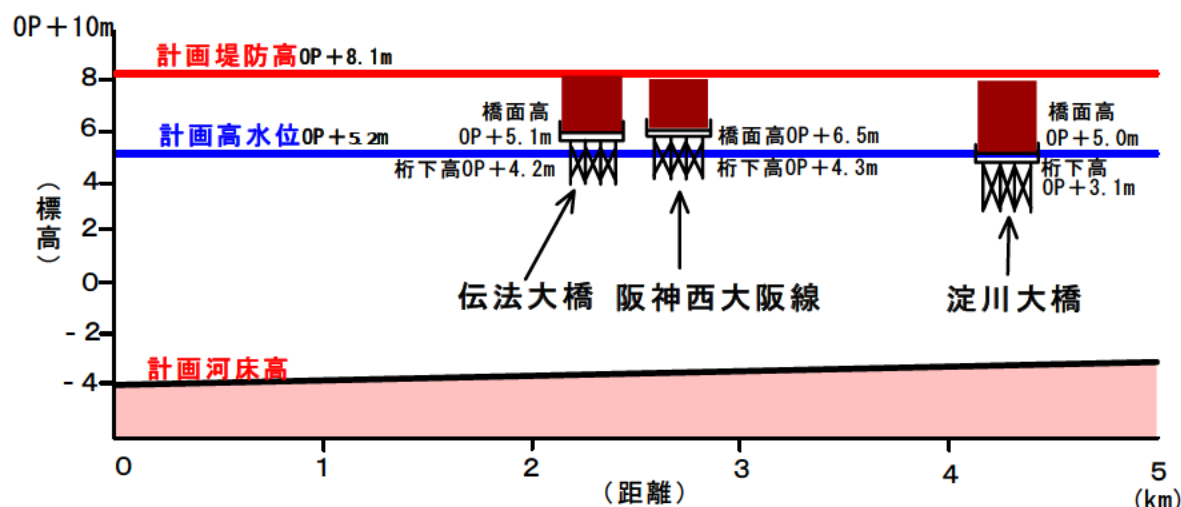
高潮来襲時の陸閘等の迅速な操作・開閉時間の短縮化を可能とするため、施設の改良と情報伝達の強化を実施する。

高潮区間において、計画堤防高(基本断面形状)が確保されていない箇所については、随時、築堤・特殊堤・消波ブロック等を整備していく。

高潮対策

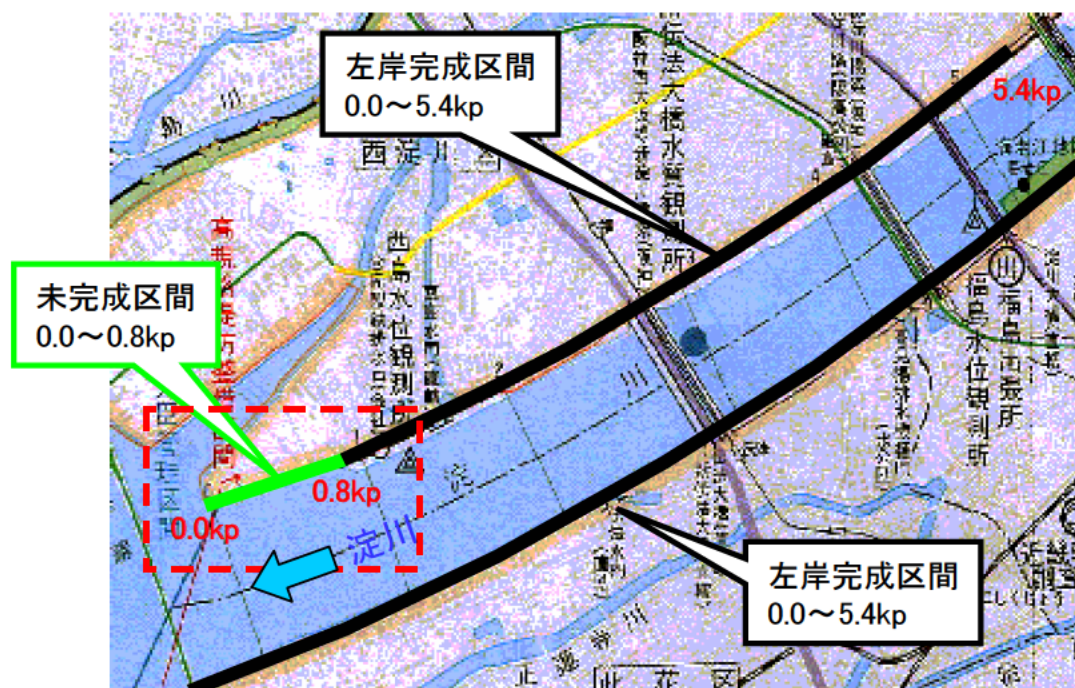
○淀川下流部の橋梁

■ 淀川における桁下が低い橋梁



橋梁の桁下高が計画高水位を下回っており、また、橋脚の本数が多い事など現行の構造基準に適合せず、流下能力の支障となっている橋梁を改築することにより流下能力の向上、橋梁流出防止、ひいては堤防破堤回避による治水安全度の向上に資する。

○計画堤防高さが確保されていない区間



阪神西大阪線淀川橋梁改築事業

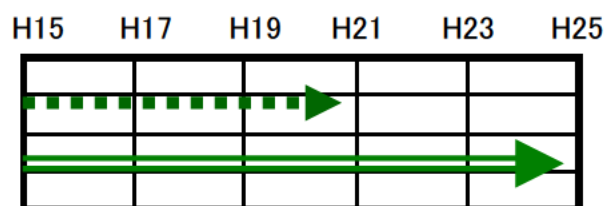
●具体的な整備内容

河川整備の進捗状況を踏まえて、洪水時に流下能力阻害となる阪神電鉄西大阪線橋梁の改築時期を検討する。その後、他の同様の橋梁(淀川大橋、伝法大橋)の改築を検討する。

●検討・実施内容

既成市街地での橋梁架替事業は、河川管理者単独での実施は、街づくりの観点からも困難であり、関連事業との共同事業で進める方針である。

●実施スケジュール



■■■■ 関係機関
===== 実施

●概要



施工進捗

■ 施工中
■ 完了
■ 施工残



橋梁の桁下が低いため、洪水の安全な流下に支障をきたしており、早急な橋梁改築が必要となっている。

計画高水流量12,000m³/sに対して7,800m³/sと65%しか確保されていない。



阪神西大阪線淀川橋梁

	現況	改築後
計画流量	12,000m ³ /s	
堤防高	OP+8.1	
HWL	OP+5.2	
最小径間長	15.4	65.7
ピア数	39	12
流下能力	7,800	12,000
計画流量に対する割合	65%	100%

陸閘操作時間の短縮化の実施(淀川大橋)

●具体的な整備内容

高潮時における陸間操作にあたっては、交通を遮断する必要があり、迅速な対応が求められる。このため、機械設備の改良を行うことで、操作時間の短縮化を実施する。また、閉鎖している時間の短縮化を検討する。

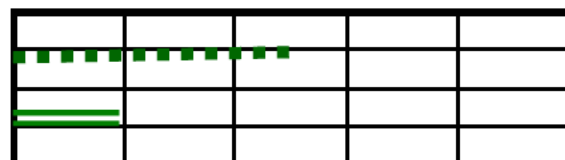
○淀川大橋

●検討・実施内容

○淀川陸閘ゲート開閉装置改造(左右岸)

●実施スケジュール

H15 H17 H19 H21 H23 H25



■ ■ ■ ■ 関係機関

== 実施(機械設備改良)

●概要

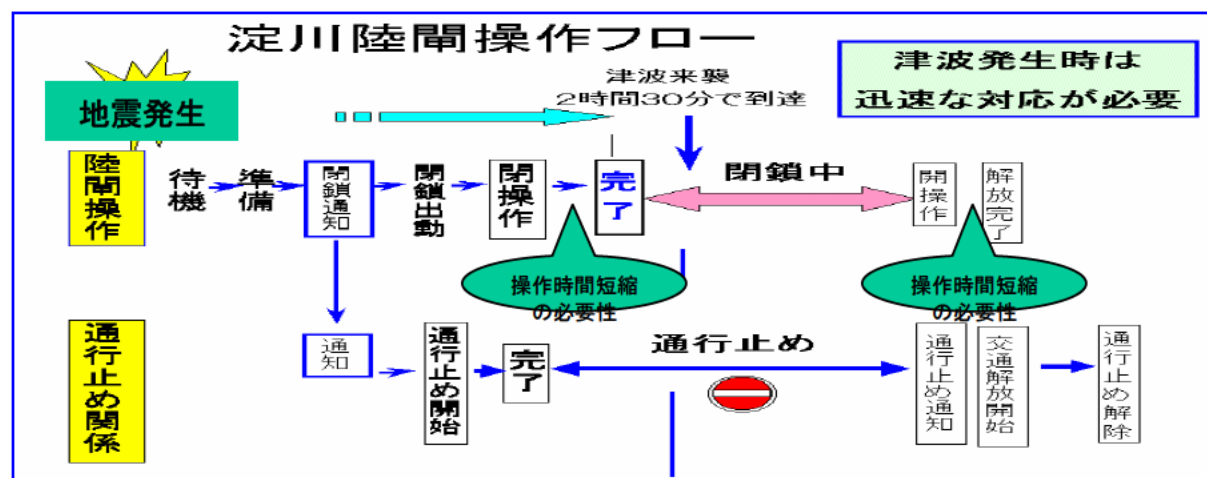
開閉装置の改善等により、陸閘の操作時間の短縮を図る。

陸閘を閉鎖するためには、交通を遮断しなければならない。一方、陸閘の閉鎖には、交通遮断に伴う道路管理者や警察との協議、出動要請、安全確認、機器操作等、相当時間を要する。交通遮断は、社会的影響が大きく、短縮化を図る必要がある。

そこで、関係機関との協議調整の迅速化を図るとともに、機械設備の改良を行うことにより、閉鎖時間を短縮化する。

陸閘操作時間を短縮化することにより、交通遮断や迂回路への交通集中などの時間が短縮され、社会経済的損失が軽減される。

また、緊急時における迅速な水防活動が可能となり、水防団等の労働負担の軽減を図ることができる。



●概要

高潮時における陸閘操作にあたっては、交通を遮断する必要があり、迅速な対応が求められる。このため、機械設備の改良等を行うことで、操作時間の短縮化を実施する。また、閉鎖している時間の短縮化を検討する

●委員会等からの意見

陸閘操作時間の短縮化の実施は概ね適切である。

陸閘については、解消が望まれるが、当面の課題として「迅速な対応」とともに「閉鎖時期及び閉鎖解除時期」についても改善が必要である。

●進捗状況報告

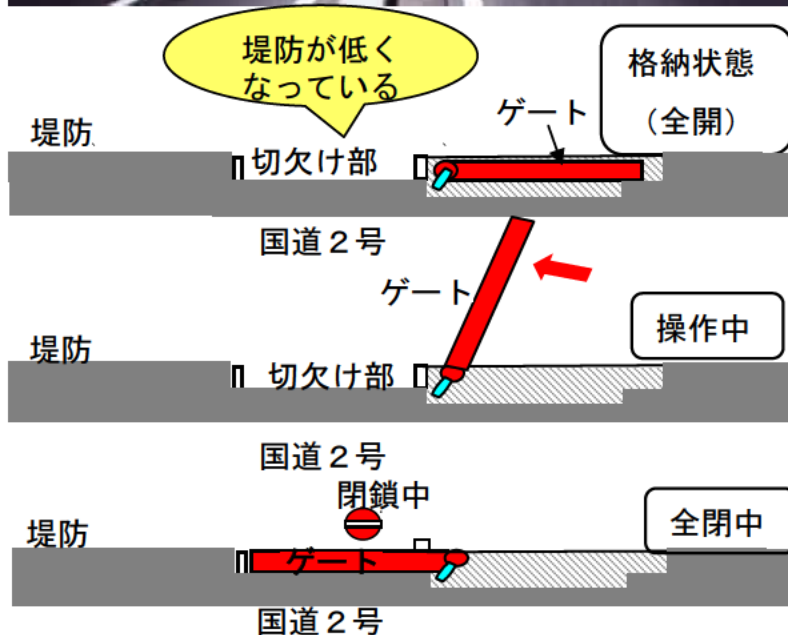
○淀川陸閘ゲート開閉装置改造(左右岸)

ゲートは、油圧シリンダーの伸縮により、180°回転する構造になっている。

今回、油圧シリンダーを伸縮する動力の油圧ポンプ能力(吐出量)をアップし、開閉時間の短縮を図った。

今後、閉鎖している時間の短縮化について関係機関と協議の上、検討していく。

項目	変更内容
開閉時間(全開⇄全閉)	約30分⇒約20分)



高潮対策事業

●具体的な整備内容

高潮区間において、計画堤防高(定規断面)を確保していない箇所については、随時、築堤・特殊堤・消波ブロック等を整備していく。

●実施スケジュール

H15 H17 H19 H21 H23 H25

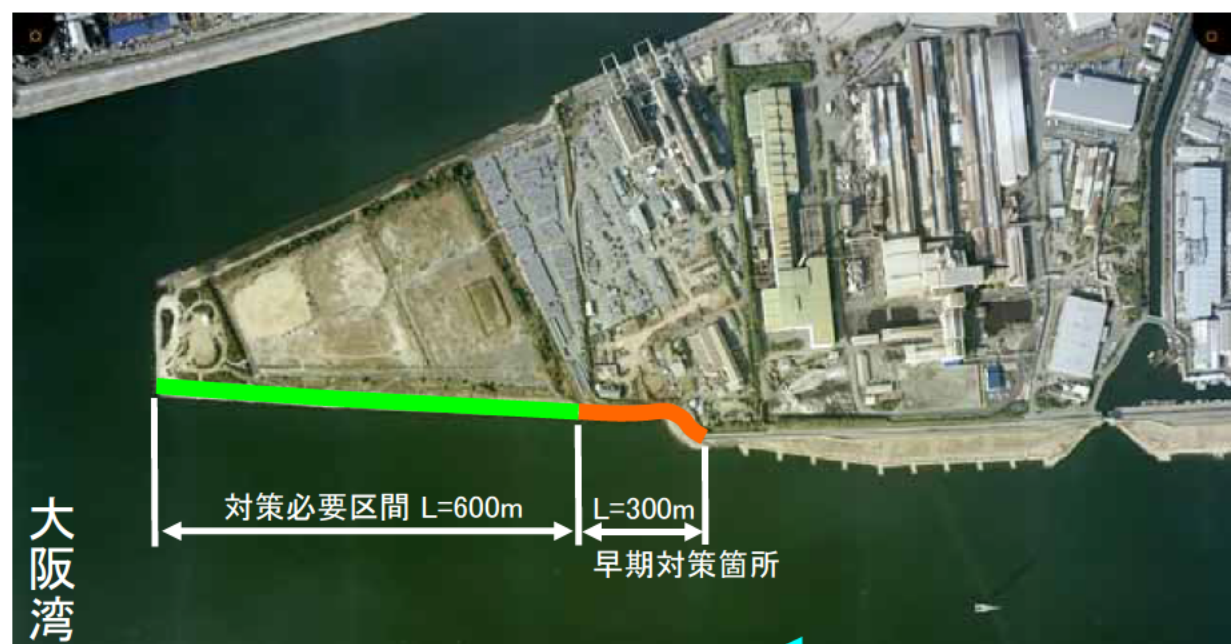
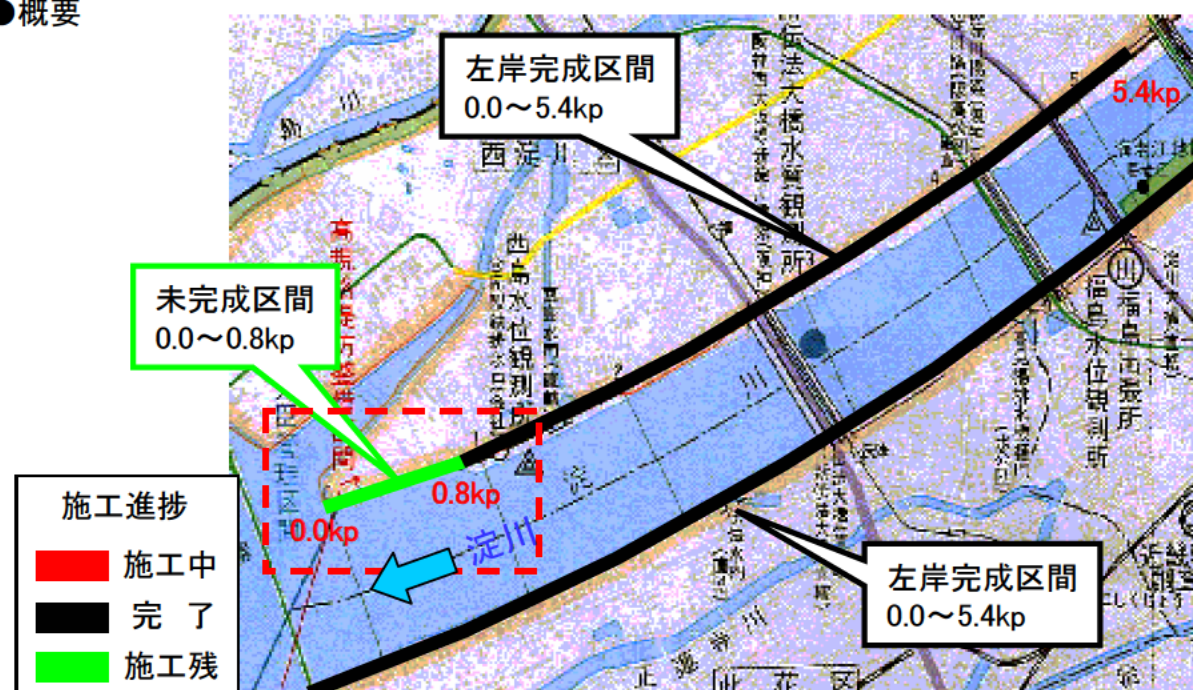
== 実施

●検討・実施内容

西島地区(右岸0.6~0.8kp)は、近年、背後地に工場が進出してきたことを受け、早期に高潮対策の実施を目指す。

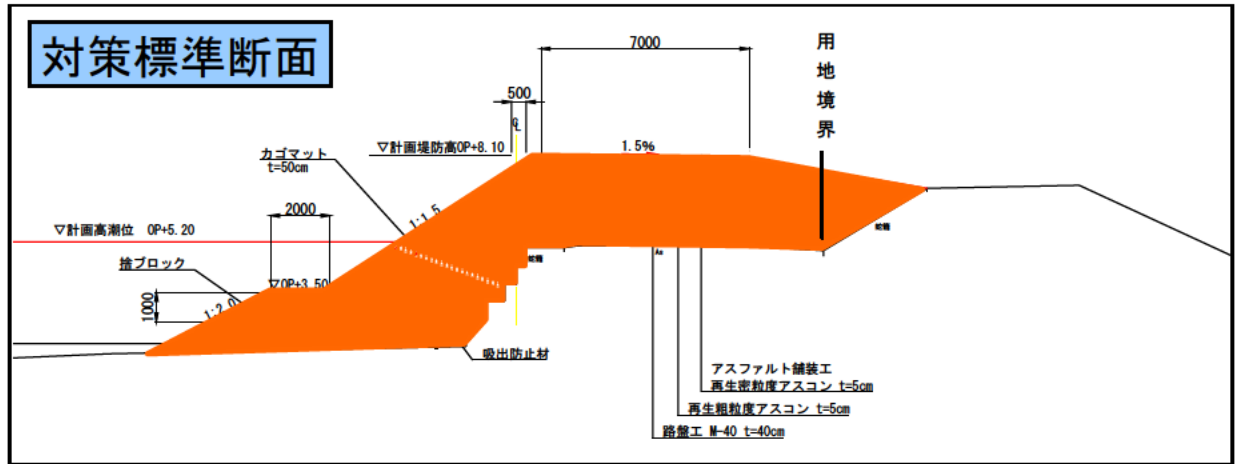
対策実施延長:L=300m(築堤)

●概要



●概要

高潮区間において、計画堤防高(定規断面)を確保していない箇所については、随時、築堤・特殊堤・消波ブロック等を整備していく。



●委員会等からの意見

意見なし(新規追加項目)

●進捗状況報告

淀川河口から5.4kpまでの区間において、高潮による被害を軽減するため、昭和25年から高潮対策事業を実施してきており、現在、右岸の一部に未対策区間を残し整備を一時完了している。

H17年度のカトリナハリケーンを契機に、淀川河口の高潮対策残区間を早急に整備する。

なお、下流側0.0～0.6kp区間については、背後地が計画堤防高よりも高い地盤高を有した公園区域であるため緊急性は低い。今後、背後地の開発状況をみながら、大阪市と調整し随時対策していく。